



PGM 世界ジュニアゴルフ選手権 日本代表選抜大会

関東予選③ サンヒルズCCイーストC (栃木県)

予選大会結果のお知らせ

<PGM 世界ジュニアゴルフ選手権 日本代表選抜大会 関東予選③>

◇2015年4月2日(木) 天候:晴れ

◇栃木・サンヒルズCCイーストC (15-17歳男子6628ヤード、パー72ほかカテゴリー別)

◇出場147人

<関東予選③ 概況>

高年齢層男女5部門が行われた。15-17歳の部男子では、大岩龍一(東京・堀越高3年)が3アンダー69をマークし、トップで決勝大会(5月5~7日、岐阜・花の木GC)に進んだ。16ホールでパーオンするなど安定したショットで4バーディー、1ボギーだった。同女子では吉田莉生(埼玉・埼玉栄1年)が1アンダー71で回り、工藤優海(千葉・麗澤高2年)らを抑えてトップ通過した。13-14歳の部男子では、梅内秀太郎(東京・立教七袋中2年)が同じ78で回った篠原株登(東京・国分寺第二中3年)と並び、18番からのカウントバックの結果、2年連続でこの部門1位になった。同女子は勝見梓(群馬・休泊中2年)が制した。

<関東予選③ 予選結果>

決勝大会進出者は以下の通り。*敬称略

▽15-17歳男子

- 【1位】大岩龍一(東京・堀越高3年) = 69
- 【2位】高橋慧(新潟・開志学園高3年) = 73
- 【3位】新藤冴(群馬・共愛学園高3年) = 74
- 【4位】宮本英門(東京・杉並学院高1年) = 74
- 【5位】栗本和博(茨城・日本ウェルネス高2年) = 75
- 【6位】一ノ瀬秀都(栃木・作新学院高2年) = 77
- 【7位】吉澤一瑠(新潟・開志学園高2年) = 77
- 【8位】篠崎嘉音(新潟・開志学園高3年) = 78

▽同女子

- 【1位】吉田莉生(埼玉・埼玉栄1年) = 71
- 【2位】工藤優海(千葉・麗澤高2年) = 72
- 【3位】藤田愛(茨城・ルネサンス高1年) = 72
- 【4位】田中のどか(東京・日大桜丘高3年) = 74
- 【5位】五月女栞雛(栃木・宇都宮清陵高1年) = 76
- 【6位】安孫子美央(長野・佐久長聖高2年) = 77

【7位】杉田茉由（千葉・西武台千葉高1年）＝77

【8位】矢嶋真琴（東京・堀越高2年）＝77

▽13—14歳男子

【1位】梅内秀太郎（東京・立教池袋中2年）＝78

【2位】篠原株登（東京・国分寺第二中3年）＝78

【3位】鈴木朝登（埼玉・大砂土中3年）＝79

【4位】山田真輝（埼玉・鴻巣中2年）＝79

【5位】栗原悠宇（埼玉・藤中2年）＝79

【6位】尾崎悠大（神奈川・逗子中2年）＝80

【7位】井坪佑介（埼玉・埼玉栄高3年）＝82

▽同女子

【1位】勝見 梓（群馬・休泊中2年）＝76

【2位】久保青空（千葉・麗澤中2年）＝79

【3位】岩井千怜（埼玉・川島中1年）＝79

【4位】金野優菜（東京・杉並学院中3年）＝80

【5位】今井鮎美（埼玉・榛松中2年）＝81

【6位】和久井麻由（栃木・東那須野中2年）＝82

▽11—12歳男子

【1位】佐藤卓郎（東京・烏山中1年）＝77

【2位】川畑京太郎（千葉・千葉国際中1年）＝78

【3位】松岡悠馬（神奈川・関東学院中1年）＝80

【4位】田中凱大（神奈川・早渕中1年）＝80

【5位】鈴木隆太（千葉・野田第一中1年）＝81

（注）同スコアの順位は18番からのカウントバックによる。

<関東予選③ ハイライト1>

◇15—17歳の部男子 ◇栃木・サンヒルズCCイーストC（6628ヤード、パー72）

大岩龍一（東京・堀越高3年）が3アンダー69の好スコアで決勝大会（5月5～7日、岐阜・花の木GC）に進出した。「パーオンを16回した。ショットが安定していた」と振り返り「短いチャンスホールで（バーディーを）決められた」と、納得がいくプレーができた。グリーンを外した2ホールのうち、7番では手前からチップインバーディーに仕留めるなど、好循環のゴルフだった。冬の間打ち込みを行い「ショットのスキル、精度向上に取り組んだ」という。ドライバー飛距離は290ヤードに伸び「体の強さは自慢なんで」と、笑う。一昨年も同じ部門で決勝大会に進んだが、5位に終わって世界ジュニアに手が届かなかった。決勝大会に向け「やることはいつも変わらずやっています」と、力まずに臨む。

<関東予選③ ハイライト2>

◇15—17歳の部女子 ◇栃木・サンヒルズCCイーストC（6138ヤード、パー72）

吉田莉生（埼玉・埼玉栄高1年）が1アンダー71をマークして、トップ通過を果たした。「いつもはそんなに好きじゃないショットがよくて、ほとんどパーオンできた」と振り返る。16番では打ち上げの第2打残り130ヤードを8番アイアンで打ち、直接カップインのイーグル。「グリーンに行ったら球がなかった。一緒に回った子がカップを見てくれて『莉生ちゃん、入ってるよ』って言ってくれてわかった」という。本人は「アプローチ、パターでスコアを出せるようにする」のが目標だという。「決勝大会では、全国から強い人たちが来ると思うけど、1位になって世界ジュニアに行きたい。外国でゴルフをしてみたい」と、意気込んでいた。

<関東予選③ ハイライト3>

◇13—14歳の部女子 ◇栃木・サンヒルズCCイーストC（6138ヤード、パー72）

勝見 梓（群馬・休泊中2年）が「もったいなかったです」と振り返りながらも、4オーバー76で回ってトップで決勝大会（5月

5～7日、岐阜・花の木GC)に進んだ。スタート直後2、3番とともに1メートルを沈めて、序盤で連続バーディー。「流れに乗れるかなと思った」というが、5番のボギーを皮切りに「グリーンを外すとリカバリーが難しかった」と、前半3つのボギー。後半に入って15番で第1打を林にいれ、うまく出したが3打目でグリーンをショートしてダブルボギーにしたのが、悔いが残るという。152センチと小柄ながら「距離でアドバンテージを取られないように頑張っています」と230～240ヤードを持っている。「自分のゴルフは粘るゴルフなので、決勝大会でも粘るようにしたい」と、意欲を見せていた。



写真： 左／大岩龍一（15—17歳の部男子）、中央／吉田莉生（15—17歳の部女子）、
右／勝見 梓（13—14歳の部女子） 写真クレジット：©IJGA2015

<関東予選② 予選結果>

決勝大会進出者は以下の通り。* 敬称略

▽11—12歳女子

- 【1位】佐久間朱莉（埼玉・名細中1年）＝76
- 【2位】鈴木優芽（埼玉・小針中1年）＝79
- 【3位】佐藤有仁加（栃木・宇都宮大教育学部付中1年）＝79
- 【4位】佐藤杏莉（千葉・麗澤中1年）＝81

▽9—10歳男子

- 【1位】池 由哉（新潟・根岸小4年）＝79
- 【2位】近藤直杜（神奈川・善部小4年）＝79
- 【3位】大久保海（神奈川・伊勢原小4年）＝81
- 【4位】岩井光太（埼玉・中山小5年）＝83
- 【5位】小林翔音（東京・半田小4年）＝83

▽同女子

- 【1位】佐藤夏恋（千葉・白幡小5年）＝71
- 【2位】関口 碧（埼玉・高萩小5年）＝83
- 【3位】岡島彩乃（千葉・稲岡小5年）＝85

▽7—8歳男子

【1位】大橋 優（熊本・清水小2年）＝90

▽同女子

【1位】松原柊亜（栃木・鹿沼東小3年）＝75

【2位】小林イリス（東京・聖学院小3年）＝76

（注）同スコアの順位は18番からのカウントバックによる

<関東予選② ハイライト1>

◇11—12歳の部女子 ◇栃木・サンヒルズCCイーストC（5577ヤード、パー72）

佐久間朱莉（埼玉・名細中1年）が、グリーンに苦しみながらも、4オーバー76でトップ通過を果たした。「パターが全然ダメだった。最初から、まっすぐ打てなくなってしまった」と振り返る。うまくいったのは「2ホールだけ」といい、14番で3メートルのパーパットを沈め、15番で同じく3メートルのバーディーを決めたところを挙げた。昨年は関東小学生大会で優勝し、全国大会では1打差2位になった。この予選には「小さいころ出ていたけど久しぶりだと思う。中1になるので（11—12歳の部では）上の年齢なのでチャンスがあるかもと思って」と、世界ジュニア代表をつかみに来ている。関東ゴルフ連盟の派遣選手として3月22～30日に米フロリダ州のIMGゴルフアカデミーで体験もしてきた。決勝大会（5月5～7日、岐阜・花の木GC）に向け「1、2メートルの微妙なパットを入れられるようにしていく」と、課題を挙げていた。

<関東予選② ハイライト2>

◇9—10歳の部女子 ◇栃木・サンヒルズCCイーストC（5001ヤード、パー72）

佐藤夏恋（千葉・白幡小5年）が、飛び抜けたスコアで決勝大会（5月5～7日、岐阜・花の木GC）に進出した。1オーバーできた最終18番パー5で、残り64ヤードをサンドウェッジで直接放り込むイーグル。「打ち上げだったんで見えなかったけど、グリーンにいた人が『入ったよ』っていうから（同伴競技者）みんなとハイタッチした」とニコニコ。自身初めてというアンダーパーの71をマークし、2位に12打差をつける圧勝。この日ただひとりのアンダーパーだった。「きょうはアイアンショットが良かった」と振り返る。昨年は3位で決勝大会に進んだが、12位に終わった。今年も出場部門は同じで「身長が8センチ伸びた」と、昨年より「成長」している。「今年是世界代表になる。2位以内に入る自信はあります」と、意気込んでいた。

<関東予選② ハイライト3>

◇9—10歳の部男子 ◇栃木・サンヒルズCCイーストC（5577ヤード、パー72）

池由哉（新潟・根岸小4年）が79で近藤直杜（神奈川・善部小4年）と並んだが、18番からのカウントバックで17番ボギーの池がダブルボギーの近藤を抑えてメダリストになった。「苦手のバンカーに入らなかったのが良かった。いつも新潟のゴルフ場でやっているの、グリーンが5倍速く感じた。3パットを3回した」とパットで苦戦したものの、バーディーを2つ奪うなど、本人は納得の表情。今年の新潟市内は雪が多く「5ヤードぐらいの小屋にビニールを張ったみたいな練習場で打っている」と、雪国のハンディはあるが、その分「アプローチをたくさんやっているから得意」と、プラスに変えている。母方の祖父が決勝大会（5月5～7日、岐阜・花の木GC）が行われる岐阜県在住。「おじいちゃんに練習ラウンドに連れて行ってもらう」と、楽しみにしていた。



写真： 左／佐久間朱莉（11—12歳の部女子）、中央／佐藤夏恋（9—10歳の部女子）、
右／池 由哉（9—10歳の部女子） 写真クレジット：©IJGA2015